

第76回中小企業団体全国大会 in 福井 つながる ひろげる 連携の架け橋

～幸せ紡ぎ ^{あした} 新しい未来へ～



全国中小企業団体中央会・福井県中小企業団体中央会は、10月24日(木)、福井県福井市・フェニックス・プラザにおいて、第76回中小企業団体全国大会を開催。全国から中小企業団体の代表者約2,000名(本県からは32名)が参集した。

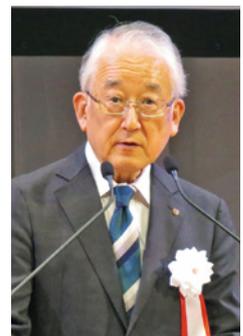
大会は、全国中央会・森洋会長の開会挨拶で幕を開け、武藤容治・経済産業大臣及び福岡資麿・厚生労働大臣からのビデオメッセージが放映されるとともに、中村保博・福井県副知事、西行茂・福井市長、関根正裕・株式会社商工組合中央金庫代表取締役社長より祝辞が述べられた。



開会挨拶をする
森会長

その後、議案審議で福井県中央会・稲山幹夫会長が議長に選任されて議事が進行し、「中小企業・小規模事業者等の環境変化対応、成長促進支援等の拡充」、「中小企業・小規模事業者の実態を踏まえた労働・雇用・社会保険料対策の推進」、「中小企業・小規模事業者の積極的な事業活動を支える環境整備」などの14項目を決議した。

また、熊本県中央会・櫻井一郎会長が意見発表を行い、本大会の意義を内外に表明するため、福井県中小企業団体青年中央会・若山健太郎会長が「大会宣言」を高らかに宣した。



議長を務める
稲山会長

大会スローガン

- 1 震災からの早急な復興、豪雨、地震対策の強化
- 2 適正な価格転嫁対策の推進と物価の安定
- 3 人材確保、生産性向上等、持続可能な成長支援策の拡充
- 4 事業承継円滑化のための対策強化
- 5 地域の実態を踏まえた労働・雇用・社会保険料対策の推進
- 6 中小企業組合等連携組織対策の拡充強化



会場のフェニックス・プラザ

続いて、優良組合43組合、組合功労者72名、中央会優秀事務局専従者25名の表彰が執り行われた。本県からは、優良組合として群馬県コンクリートブロック事業協同組合(町田憲昭理事長)が、組合功労者として塚田且美理事長(群馬県ビルメンテナンス協同組合)、中央会優秀事務局専従者として松本陽介主任(経営支援部振興課)がそれぞれ受賞した。

本県の受賞者



優良組合
町田理事長

組合功労者
塚田理事長

中央会優秀専従者
松本主任

次期全国大会については、令和7年11月12日(水)に、広島県広島市において開催することが発表された後、大会旗が福井県中央会・稲山幹夫会長から広島県中央会・伊藤學人会長へと継承され、次期開催地会長挨拶を行った。

最後に、独立行政法人中小企業基盤整備機構・宮川正理事長の音頭による万歳三唱が行われ、閉会となった。



大会旗を掲げる広島県中央会・伊藤会長

中央会コース

本会では、全国大会に併せて中央会コースを設定した。参加者は15名。

大会当日の朝に出発し、全国大会に参加。大会終了後は、130年の歴史をもち店舗が重要文化財となっている老舗料亭「開花亭」にて、懇親会を開催した。料亭では、日本海の恵み豊かな食材を使った美味しい料理や良質な水で仕込んだ爽やかな地酒を味わった。

翌日は、戦国大名朝倉氏の城下町が再現された「一乗谷朝倉氏遺跡」や凜とした空気の漂う曹洞宗の大本山である「永平寺」、恐竜の化石の宝庫として世界的に有名な「福井県立恐竜博物館」を視察し、福井県がもつ自然の美しさ、大迫力の恐竜、歴史を紡ぐ名所を堪能した。



←(開花亭にて)
福井市浜町には
芸妓文化を
大切にする
芸妓組合があり、
踊りを披露



世界三大恐竜博物館と称される福井県立恐竜博物館



永平寺の清浄な空間にて



↑永平寺の160畳の大広間、
傘松閣(さんしょうかく)にて
花鳥の天井画を見学する様子

インボイス制度対策セミナー

10月4日、高崎市・ホテルメトロポリタン高崎において、「会計事務所に相談の多いインボイス制度の実務上の問題点」をテーマにセミナーを実施しました。講師は、税理士の中島祥貴氏。

中島氏は、インボイス制度運用開始から1年の間で、実務上の多くの疑義が生じた結果、実務の煩雑さを考慮した様々な特例が生まれていると説明。原則よりも、簡便な処理



講師の中島氏

を認める特例を把握することで、経理処理を楽にできる余地があると述べた。

続いて、これまで実際に相談を寄せられた事例を取り上げながら、立替金の精算やインターネットバンキングによる振り込み、自販機で購入した場合などの取り扱いを解説した。

最後に、インボイスにおいては、実務的な知識を日々アップデートしてほしいと呼びかけた。

理事会で上半期事業報告と価格転嫁セミナー

10月21日、前橋市・前橋商工会議所会館において理事会を開催し、令和6年度上期の事業報告等を行った。

理事会終了後には、群馬県地域企業支援課マーケティング支援係より、価格転嫁に対する群馬県の施策の紹介や中小企業診断士による価格転嫁セミナーを開催した。

理事会は、役員31名の出席を得て開催。吉田勝彦会長を議長に、令和6年度上期事業並びに収支概況報告、新加入会員の承認・脱退会員の報告、今後の主要行事日程について説明を行った。



まず、設立の実績を報告。新たな外国人の受入れ制度の実施を前に、技能実習生の共同受入を目的とした設立相談が減少していることを背景に、1件にとどまった旨説明した。

補助事業の実施状況については、各組合の要望に応じた各種研修会・講習会が順調に開催され、下期も予算の範囲内で、数回の開催が可能であると活用を呼びかけた。

また、昨年まで合同企業説明会を中心としていた企画提案型支援事業は、事業内容を見直し、業

界が抱える構造的課題の整理や魅力ある職場創出のための方策立案などを通じて、未来に向けて人材確保のあり方を探るべく、本会と生コン業界で共同調査研究を実施している旨報告した。

さらに、ものづくり補助金については、令和2年に開始された現行制度が令和7年1月をもって全て完了する予定であるとし、公募が開始された中小企業省力化投資補助金は、当初の予想より低調な滑り出しだが、今後、制度の改善と更なる事業内容の充実により利用者の増加が期待されると説明した。

理事会終了後、群馬県地域企業支援課マーケティング支援係小林俊造係長が、「パートナーシップ構築宣言」について説明。

続いて、「中小企業の皆様に役立つ価格交渉講習会」をテーマに、セミナーを開催した。



価格交渉を解説する
中小企業診断士の春吉一穂氏